

観光立国を先導する世界トップクラスの 観光地域づくりに向けて

観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくりセミナー in 渡島



大沼公園から望む駒ヶ岳

国土交通省 北海道局

令和8年1月7日

第9期北海道総合開発計画

目標1「我が国の豊かな暮らしを支える北海道

～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」

目標2「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造

～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

第9期北海道総合開発計画の主要施策(観光)

「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」

主要施策の実現に向けた施策の基本的方向

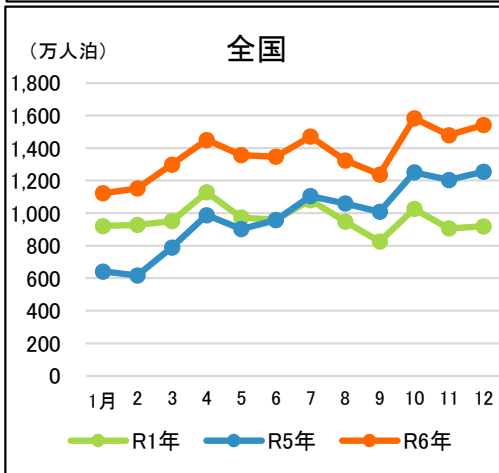
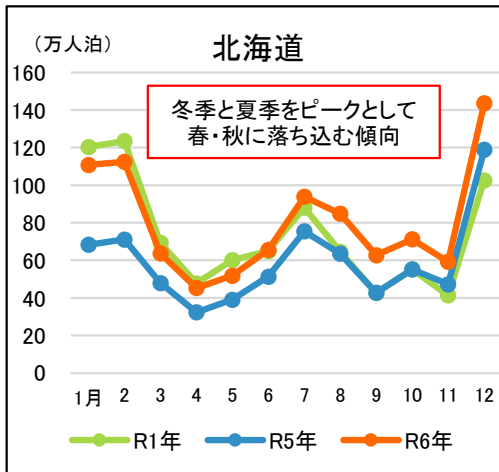
- (1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上
- (2) 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備
- (3) 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり

(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上

- 北海道観光は、高付加価値化による「稼ぐ力」の向上や、閑散期の需要創出が課題。また、北海道の特性を活かした新たな観光コンテンツの創出、受入環境整備が求められている。
- 高付加価値化を実現するため、アドベンチャートラベル等を推進。また、季節偏重の緩和のため、閑散期の国際会議等開催を推進。
- 新たな観光コンテンツの創出、受入環境整備に向けて、生産空間での滞在・体験を行う農泊等による観光地域づくりを推進。

現状と課題

外国人延べ宿泊者数の月別推移



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海局作成

■アドベンチャートラベルの推進

- ATWS2023において、モデルルートを世界各国のバイヤーにPR。



出典：北海道観光機構

- アドベンチャートラベルのコンテンツを地域と連携して構築。



出典：知床ねむろ観光連盟

■閑散期の国際会議等誘致

- 閑散期(5月)にASEANTAの年次総会を開催するとともに、ユニーク ベニューのエクスカーションを実施。(札幌市)



豊平館(北海道の自然、森をイメージした空間)でおもてなし

取組事例

■サイクルツーリズムの推進



- 台湾のサイクリストを道南サイクルコースツアーに招聘。

- 「とかぶち400」において、①荷物を空港連絡バスに預け、レンタサイクルで観光、②空港・バスターミナルで自転車を返却、荷物を受け取るサービスを実施。



- サイクリングプランの英語版パンフレットを作成し、海外サイクリストへPR。

出典：歴史・文化を活かした
南北海道サイクルツーリズム
推進協議会

■農泊の推進

- 空き家を改修し、農泊の交流拠点を整備。犬ぞり体験や農業体験などの季節に応じた体験コンテンツを提供。

出典：鹿追町農泊推進協議会



交流拠点施設
「トマルカフェ鹿追」



犬ぞり体験



農業体験

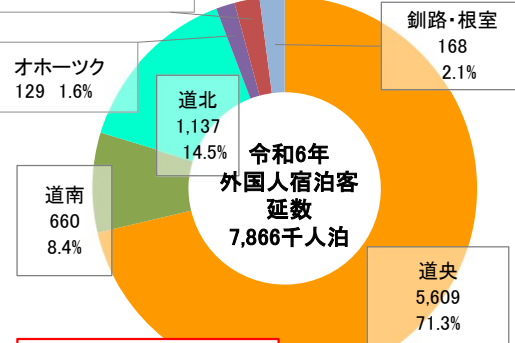
(2) 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備

- 北海道の観光資源は、各地に点在しているが、空港・港湾から観光地までの二次交通の利便性が低いこと等から、来道外国人旅行者の宿泊地の多くは道央圏に集中。また、外国人等の多様な旅行者が安全・安心に旅行できる環境が求められている。
- 新千歳空港を始めとする空港、大型クルーズ船受入のための港湾整備、高規格道路など各港湾等とのアクセス性を向上させ、観光地への二次交通の利便性確保を推進。
- 地方部の滞在拠点等における受入環境整備や多様な旅行者が安全・安心に旅行できる取組、観光地におけるデジタルの実装等を推進。

現状と課題

6圏域別来道外国人宿泊客延数

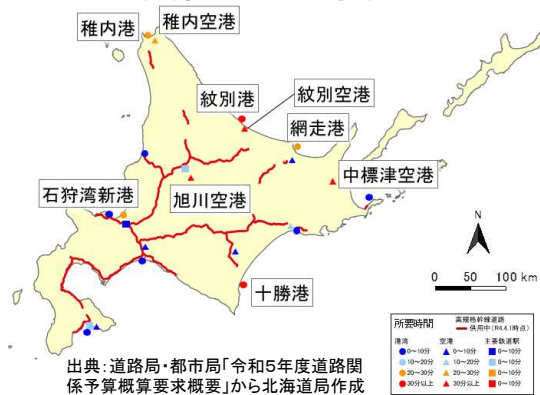
(令和6年)



インバウンドの宿泊先は道央圏に集中

出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

主要な交通拠点と高規格幹線道路のアクセス状況

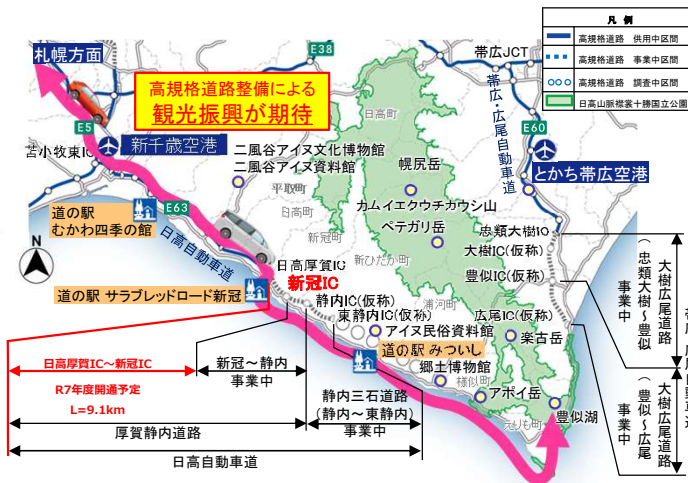


取組事例



アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク

令和6年6月25日、日本最大面積となる「日高山脈襟裳十勝国立公園」が誕生。



「道の駅」における多言語での情報提供

- 外国人が安全・安心にドライブ観光できるよう、パンフレット、デジタルサイネージ、外国語通訳機等を設置。



英語版のパンフレット



外国語通訳機



デジタルサイネージ

道の駅「花ロードえにわ」
(JNTO認定外国人観光案内所)

クルーズ船受入環境の改善

- 道内各地へのアクセスが容易になるよう、道内港湾のクルーズ船受入環境改善を推進。



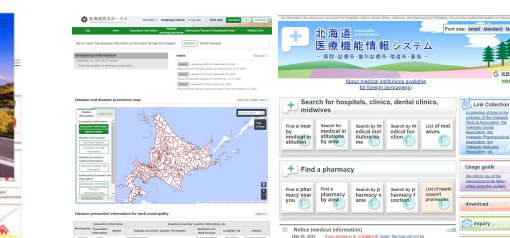
函館港に寄港するクルーズ船
(2023年に供用開始した大型クルーズ船対応岸壁)

外国人旅行者への情報提供の更なる推進

- 多言語による交通情報・医療情報等の提供を推進。



英語、韓国語、中国語(繁体・簡体)
外国人ドライブ旅行者向けポータルサイト(多言語)



「北海道防災ポータル」「北海道医療情報システム」
(多言語)

(3) 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり

- 観光客が集中する一部地域では、過度の混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響等が課題。移動時のCO₂排出等自然環境への負荷の低減や観光の担い手育成が必要。
- ➡ オーバーツーリズム対策を推進し、観光客の受入れと住民の生活の質の確保を図る。
- ➡ CO₂削減の取組としてゼロカーボンモビリティの活用を推進するとともに、多様な主体と連携し、観光を支える地域の担い手育成を図り、自然環境・文化や景観が両立した観光地域づくりを推進。

現状と課題

美瑛町のオーバーツーリズムの事例



【マナー違反】

美しい風景の写真を撮るために農地（私有地）への立入りが多い。



【混雑】

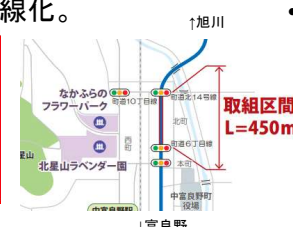
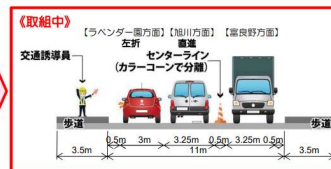
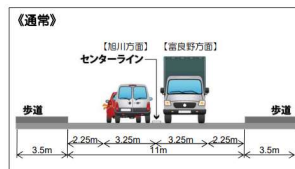
観光客の車両が集中することで交通渋滞が発生。また、生活道路や農道への違法駐車により、生活交通が妨げられている。

出典：第21回観光立国推進閣僚会議資料から
北海道局作成

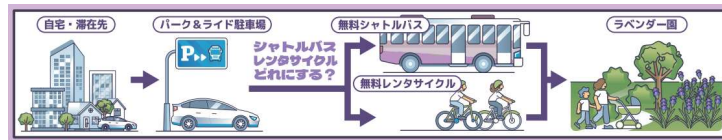
取組事例

■臨時車線等によるオーバーツーリズム対策

- ピークシーズンに中富良野町の車線の一部区間を2車線化。



- 合わせてパーク&バスライド・サイクルライドを実施。



■シーニックバイウェイ北海道の推進

- みちをきっかけに地域住民の方々と行政とが連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・改善の取組を進めることにより、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを推進。



花植活動



維持活動
(雑草取り、水やりなど)

函館・大沼・噴火湾ルートの花植・維持活動の状況

■ゼロカーボンモビリティの普及・促進

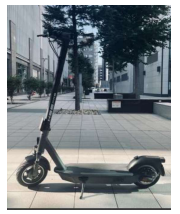
- EV等の普及促進のため、市町村等と連携して、「道の駅」での急速充電施設の設置の推進(令和6年12月時点 58/128駅)や、ゼロカーボンモビリティ(電動キックボード)による実証実験を実施。



施設案内標識



道の駅でのEV充電状況



使用機材
LAIL グレードL

■自然環境・文化や景観と観光が両立した観光地域づくり



- 世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」に登録された地域の受入環境の整備を支援。
 - 大船遺跡へのアクセスが向上する尾札部道路の早期整備
 - 広域的な観光周遊を支援する案内標識の設置
 - 遺跡を活用した勉強会を開催



「縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会」における研修会を開催。

- かわまちづくりなどと連携し、馬文化、アイヌ文化を活用した観光地域づくりを推進。



十勝うまかわプロジェクト
十勝馬文化と河川管理



平取町かわまちづくり
アイヌ文化とかわづくり

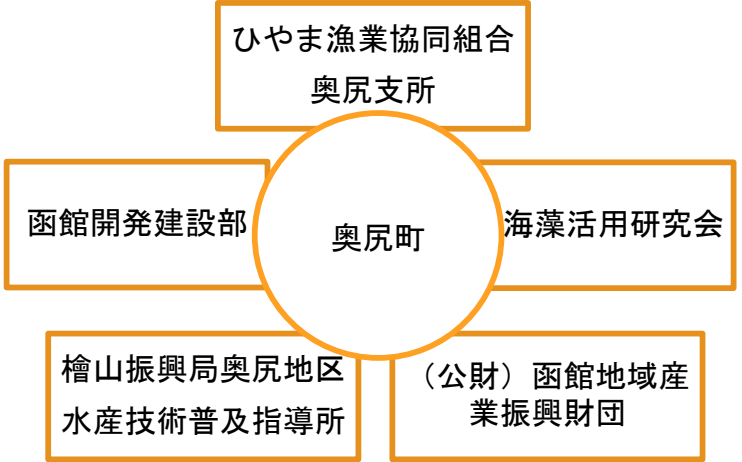
○ 北海道は、全国に先んじて人口減少が進んでおり、若者の流出による担い手不足や地域経済の活性化・コミュニティの活力維持が困難となることが懸念されることから、多様な人材・主体による分野を超えた共創（協働・連携）による北海道の新しい価値を生み出す取組を進める。

■奥尻海藻活用調査検討プロジェクト

- ・奥尻町において、健康成分や栄養価が高いにもかかわらず、これまであまり着目されていなかった未利用海藻である「ホソメコンブ」を活用した漁業振興を目的に、「奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会」を設立。
- ・ホソメコンブを原料とした商品を開発・販売するとともに、ブルーカーボンクレジットの取組を推進。

産学官民による検討チームの発足

「奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会」
（令和2年11月設立）



取組の成果

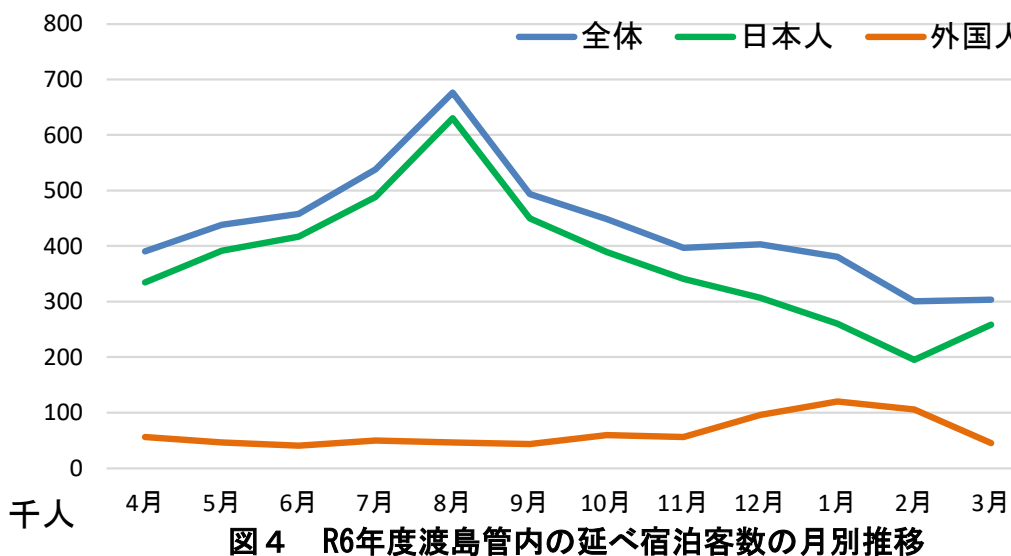
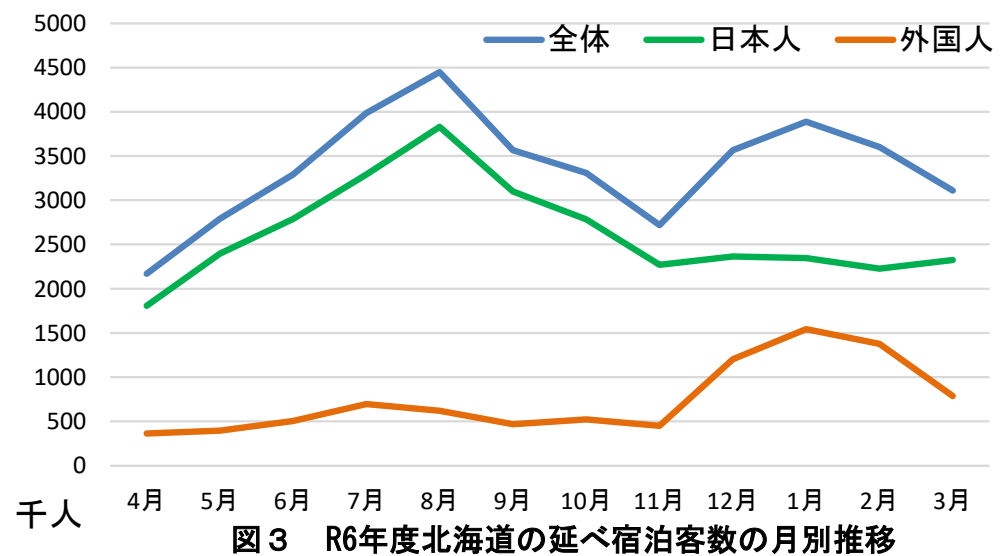
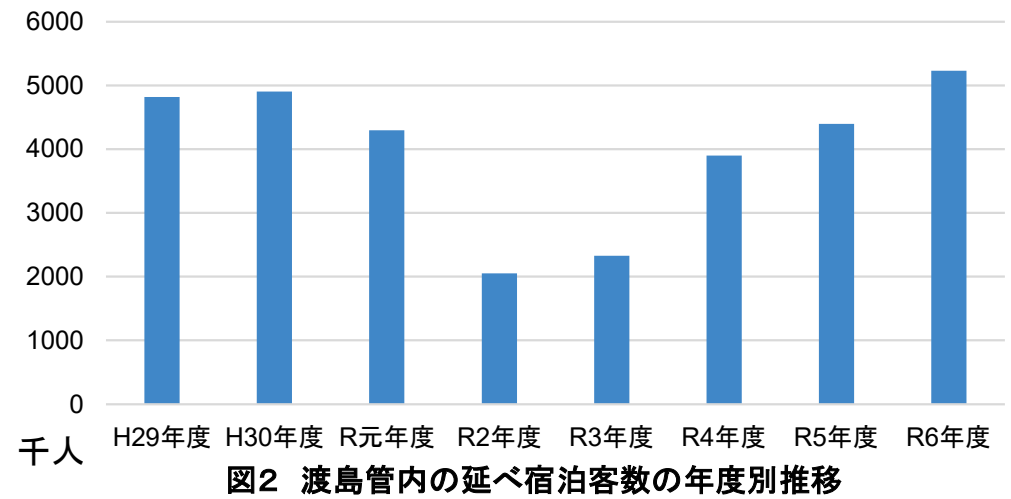
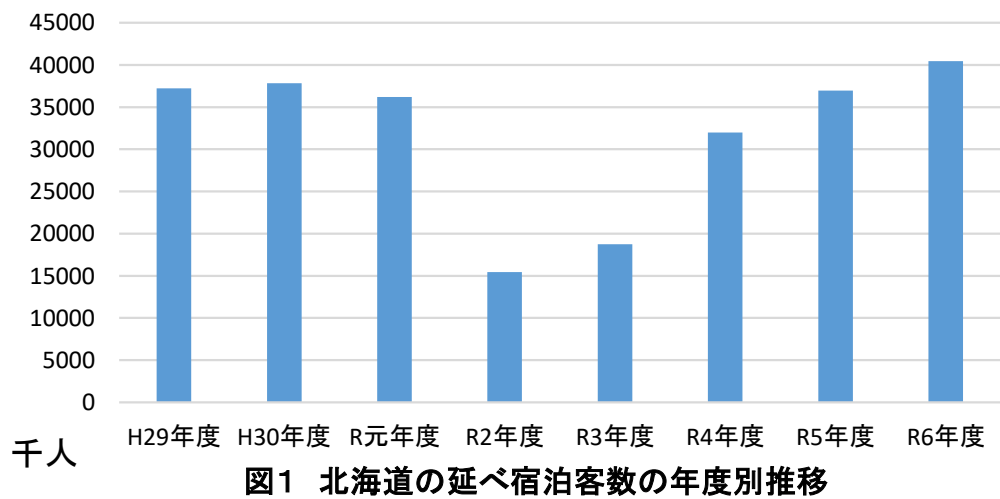


（左）ホソメコンブを原料とした化粧水と出汁セットを販売（令和3年～）
（右）奥尻高校生徒によるパッケージデザインの化粧水をHAC機内販売（令和6年8月）



ブルーカーボン調査の様子
（令和7年1月クレジット認証）

- 延べ宿泊客数はコロナ後、北海道、渡島管内ともに回復傾向（図1、図2）。
- R6年度北海道の延べ宿泊客数（全体）は8月にピークとなり、秋季にかけて減少し、1月に再び増加している（図3）。
- R6年度北海道の延べ宿泊客数（日本人）は8月にピークとなり、延べ宿泊客数（外国人）は1月にピークとなっている（図3）。
- R6年度渡島管内の延べ宿泊客数（全体）は8月にピークとなり、秋季から冬季にかけて減少している（図4）。
- R6年度渡島管内の延べ宿泊客数（日本人）は8月にピークとなり、延べ宿泊客数（外国人）は1月にピークとなっている（図4）。



出典: 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成